

カウンセリングのお作法 第44回

CON

Counseling Office Nakajima

カウンセリングオフィス中島 中島(水鳥)弘美

～ 支援の記録について(2) ～

初回面接



前回に続き、記録についてです。

支援を順調に効果的にすすめるために、面接の何に関して、どのように記録を残すか、初回面接当日、家族面接の社会的段階を中心に話します。

初回面接は情報の宝庫

面接の予約日時になると、ご家族が来所され、次々と記録すべきことがあります。

約90分のカウンセリングが始まる前に、担当者は、それまでに得られている記録、家族構成、紹介者、主訴等を再度確かめ、面接に臨みます。

初回面接の大きな目標は、家族との信頼関係の構築、ジョイニングです。

ご家族が到着すると、まずは受付、面接受付表の記入を依頼し、紹介状等を受け取ります。事務的な手続きをしているみなさんを見守ります。

これまではメールや電話でのかかわりでしたが、初めて直接お会いし、コミュニケーションをかわすなかで、「子どもさん、身長高いなあ」と、自然に得る情報も多々あります。もちろん、あらさがしをするのではなく、特徴に注目します。

また、ご家族同士の会話や行動からそれぞれのご家族の雰囲気把握します。

例えば、父母子ども(本人)の来所の場合を挙げてそのポイントを見てみましょう。

面接室に誰が最初に入室したか、どの椅子に座るのか場所を決めるとき、荷物をどうするかなど、家族がどのようなやりとりをしているのか、その様子を受けとめます。初めての場所でキョロキョロしておられる場合もあり、その場になじむまで、ご家族のペースにあわせて待ちます。

入室 父→母→本人 座席順番 父 本人 母

社交的段階あいさつ

面接が始まり、担当者はあいさつ自己紹介をします。

そのとき、名刺を手に「どなたにお渡ししましょうか」と伝えながら、お渡しします。紹介状を持参された場合は、紹介者からの情報提供についても触れ、紹介礼状を送ることも伝えます。

特に慎重が必要なのは、子どもさん本人への最初の話しかけです。子どもさんと信頼関係を作ることが初対面時の核となるからです。

子どもさんが話しても大丈夫そうであれば、こんにちとは話しかけます。しかし、不安そうな様子や、落ち着きなく座っているようなこともあります。来所することが負担になっていることも考えられるため、子どもさんがどのような心境にあるのかを想像します。学校からの指示で来所しているような場合には、家族そろっての参加をねぎらいます。

子どもさん本人の参加モチベーションに関する記録は、詳細に残します。

のちに、この様子がどのように変化するのかにも注目していきます。子どもさんの変化は急激に起こる場合もあるからです。

来所時に無表情で、全く話すことができない子どもさんも、面接の後半、徐々に表情がやわらぐようになることがあります。このような変化は、貴重なデータとなります。

家族構成図ジェノグラム

次に記録することは、家族構成と家族それぞれの呼び方です。

面接受付表には家族全員の名前が記されているので、表を見ながら、それぞれの名前、呼び方を確かめます。何かお名前に特徴がある場合は、名付けの由来をたずねることもあります。

家族の話題は、デリケートな内容を含む可能性があります。担当者にはわからない事情、オープンになっていない話があるかもしれません。そのため、家族の反応を確かめながら取り扱い、違和感がない場合は、おじいさん、おばあさんなど、特に親しくしている家族、親族や関係者についてうかがいます。

「どちら側のおばあさまですか」

と、家族構成図ジェノグラムに書き加えます。

「お近くにお住まいですか」

居住地などの情報も集め、関係者や協力者の全体像を把握をします。

どのような人々や環境の中でご家族が生活されているのかをつかむのですが、初回だけでなくのちの面接でもこの話題がでてくることがあります。

家族の行動パターン

話された内容そのものとともに、面接中におきていいることも記録します。

たとえば、誰かが話しているときのほかの家族の様子です。

担当者が何かを質問をして、子どもさんが話すとき、母の顔を見ながら話し、母もよく子どもを見てうなずく、そのとき父は、母子の様子をよくみている

この家族のよくある行動パターンなど、その場面の様子を記録に残すことが大切です。

初回面接では、全員が初めてのできごとの連続になります。

カウンセラーは、ご家族それぞれの行動、表情、しぐさなどに関心を向け、心境を推測し、バランスよく問いかけ、話を聴き、記録をします。